

「心(外界)と身体(内界)との関係性」を診る I

連載
1

— 脳科学に基づく最先端統合医療 —

保井志之D.C.

この度、カイロタイムズ様

の紙面で「心と身体の関係性」を診る心身条件反射療法（PCRT）（別名・ニューロパターンセラピー）を応用した臨床報告などを、PCRTを活用している臨床家の先方の報告も交えて六回の連載にてご紹介させていただく機会をいただいた。

西洋医学とは異なる代替医療のほとんどが、いわゆる肉体（ハード面）のみの施術が主流であり、メンタル面（ソフト面）、すなわち外界との関係性に注目し、そこにダイレクトにチャレンジする治療法はまだまだ少ないように思

私は開業当初から、アク

ティベータメソッドというとても切れ味の良いカイロプラクティックテクニクを主な施術法として使用している。

筋骨格領域の症状では、急性慢性を問わず、臨床的にはとても良い成果を上げており、

現在でも広く活用させていただいている。しかしながら、

症状を引き起こす本質的な原因や、症状がぶり返される原因、あるいは筋骨格系以外のアレルギー症状や自律神経系症状の本質的原因を追及していると、肉体内だけの施術では、本質的な原因特定が見えないという事実がみえてくる。

本質的な原因とは何か？

それは、肉体（内界）と外界との関係性、すなわち心（外界）と身体（内界）との関係性によるエネルギー交換異常や情報交換異常であるという見方もできるだろう。

生命は、外界との関係性を遮断して生きていくことはあり得ない。関節をどのようにアジャストするのか？脳・神経系の機能異常をどのように改善させるのか？ということをしていくら深く考えたとしても、それは、生命体を試験管の中にいれて、閉鎖的に機械を扱うかのように分析し調整したことにとどまるだろう。

人間という生物体には必ず

内界と外界との関係性が存在する。当たり前すぎることはあるが、この有機論的關係性は注目されず、代替医療と呼ばれている施術のほとんどが、外界との関係性を無視した機械論的、閉鎖的な施術にとどまる傾向にある。

外界の様々な情報を受容し、処理する主なコントロール中枢は神経系である。この神経系の中核である脳の柔軟性が損なわれると、外界の変動に適応するホメオスタシスが低下し、免疫系や内分泌系の自律性も低下する。このような負のパターンが脳に記憶化（条件づけ）されると、システムとして病的にプログラム化され、様々な症状を引き起こす。PCRTはこのような負のパターンを分析し改善する心身相関的な本質的な統合医療である。次号に続く。